



ひとりじゃないよ

NPO法人

ファミリーコミュニケーション・ラボ

不登校後はどうなる？

- 中学3年時不登校だった子の5年通過時点
非就学・非就労の割合は2割弱

『不登校に関する実態調査』～平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～（平成26年7月9日）

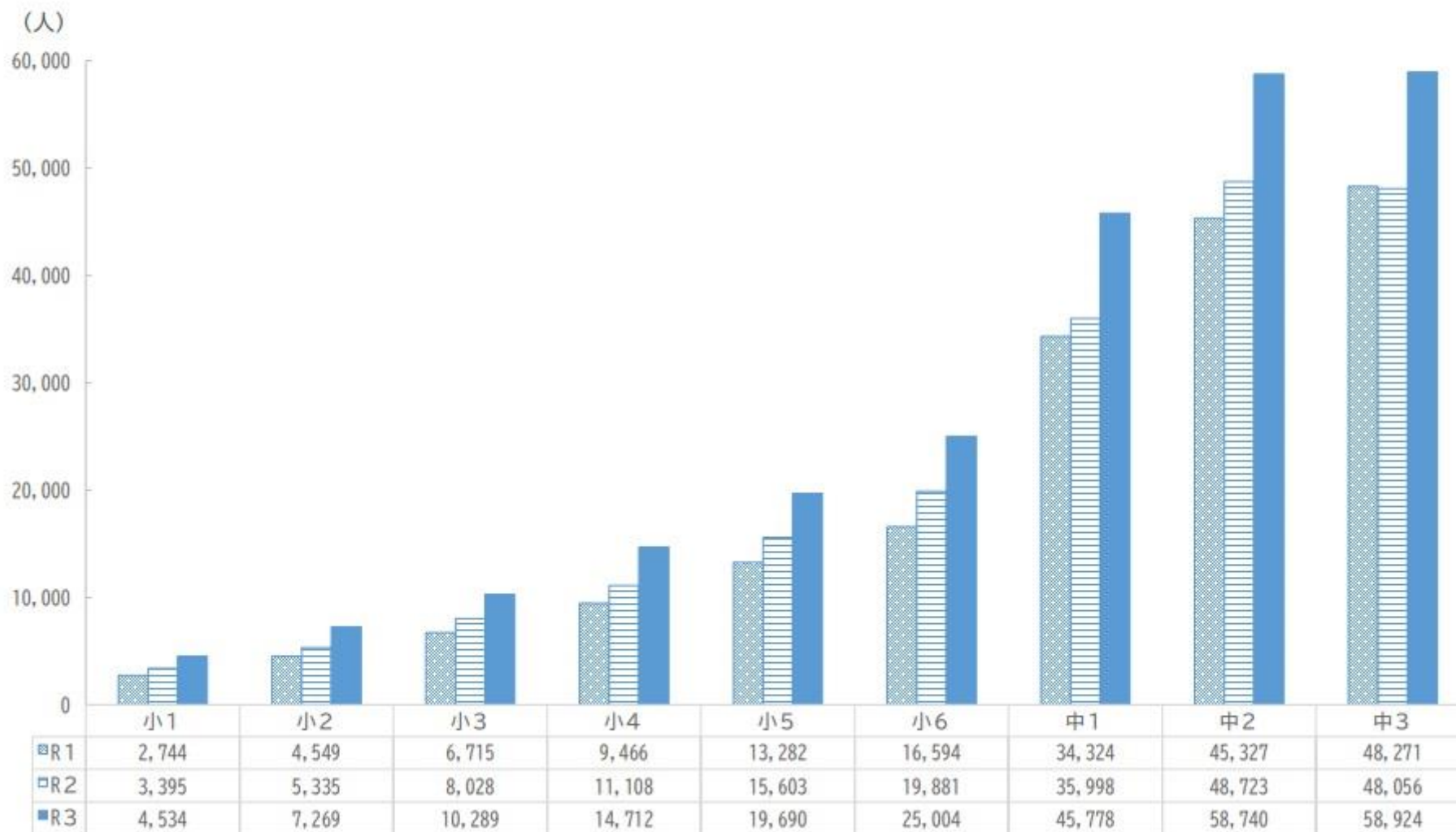
- 発表者が知っている範囲で不登校後の自殺者は5名
いずれも18歳だった

安易に不登校でも大丈夫と言える状態ではない

小・中学校における不登校の状況について

■ 学年別不登校児童生徒数

2022年10月27日、「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」



不登校後はどうなる？

- 中学3年時不登校だった子の5年通過時点
非就学・非就労の割合は2割弱

『不登校に関する実態調査』～平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～（平成26年7月9日）

- 発表者が知っている範囲で不登校後の自殺者は5名
いずれも18歳だった

安易に不登校でも大丈夫と言える状態ではない

不登校は子どもにとっては傷つき体験である



人間関係・学習・環境要因等、様々な理由で疲れがたまる。
中には、いじめ等の理由の事もある。

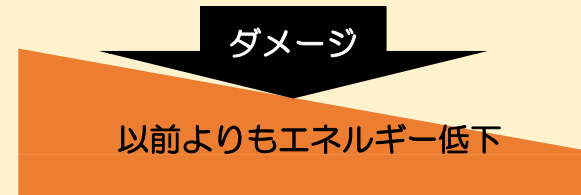
ある日、学校に行こうとすると、体が動かなくなる。気力がなくなる。
ショック・自信の低下・自己嫌悪・将来への不安

進学や転校などの環境の変化で、社会復帰

まだ回復しきってない。心が傷つきやすく、もろくなっている。

再度、行けなくなってしまう。

一度目より、精神的ダメージは大きい



動けなくなってしまう

エネルギー量

学校が苦手な子のママのピアサポートグループ

NPO法人ファミリーコミュニケーション・ラボ

不登校後の三次予防（再発防止）

引きこもり、未就労などで社会参加を阻害される人を少なく

一人ひとりのウェルビーイングを確保

（SDGs）誰一人として取り残さない

親の願い：子ども達の未来を大丈夫にするために！！

必要なサービスを必要な人へ

2008

2009

2012

2015

2022

◎SNSmixi内に
不登校で知り
合った母親4人
が日本初の不登
校の子の母親に
特化した掲示板
を作成



◎掲示板参加の有
志の母親で大阪に
て傾聴勉強会を定
期的に開催

◎名古屋・東京で
も有志の母親たち
が勉強会の場を持
つようになる

◎大阪・名古屋・東
京で傾聴を学ぶメン
バーが大阪で集まり
をもつ。それ以来、
年に1回場所を変え
て講師を迎えて学ぶ
場と交流の場を持っ
ている。

◎宝塚・神奈川・三
重・埼玉・岡山・
ONLINEでもそれぞれ
場が立ち上がる

◎各会場を統合してNPO法人化

現在
mixi掲示板参加者数
1650名
会員数約350名
13会場

小中学生の不登校の推移

12.7万

13.4万

24.5万

当法人での取り組み



- ・ 2か月に1度
定期的な傾聴勉強会

いったん崩れた子どもの自信を取り戻し、健全な親子関係を作り出します。
親子関係が健全⇒家族以外の人とも信頼感のある関係が築ける

- ・ その他にも、
懇親会・お茶会を各会場で定期的に行開催

安心安全の場でおしゃべりする事で、ストレスの削減を目指します

当法人での取り組み



- SNS掲示板を利用して、情報交換やしんどい気持ちを整理する場を提供
- 2008年より15年間の先輩ママの書き込みを読む事で、どう対処していけばいいかが明確になる

当法人での取り組み



【みんな語録 # 2】

子どもの人生、運転手は子ども自身、勝手に運転席に座ったり、助手席からハンドルさわったりしないの。

そして人生の運転は、とりあえず緩くアクセル踏んでたら、行先を決めずとも何とかなるもの。行き先ばかり見ると、クラッチ合わせ失敗するよ。

親は未熟な運転を、そっと見守っていれ...



友だち



トーク



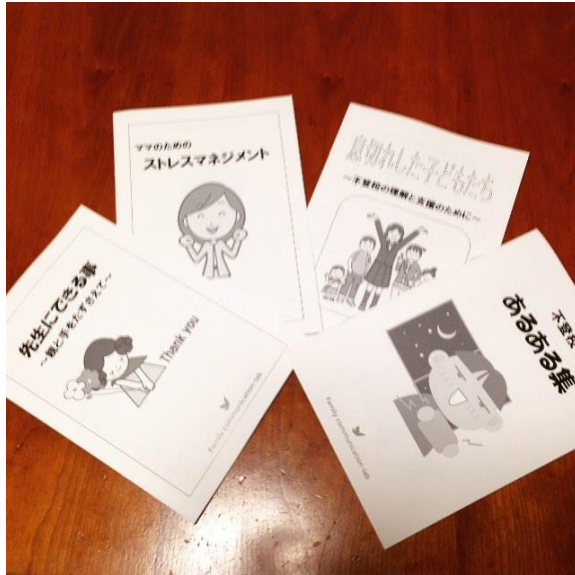
ホーム



管理

- ・ 誰でも登録OK
毎朝8時にLINEに届くメールマガジン
- ・ 週に一度子ども向け心理学雑学メールマガジン

当法人での取り組み



- ・ 母親の言葉を代弁/不登校の知識提供

お役立ちリーフレット
対学校・対父親
対祖父母等

当法人での取り組み

会員専用メニュー



- ・ 会員のみ閲覧可の安心安全の専用掲示板では、有資格者が会員の質問に回答して、至急の案件に対応している
- ・ 子どもも利用できる有資格者によるチャット/電話相談

当法人での取り組み



年に一度、母親の心が少しでも楽なってもらえるような記念品を作成して会員に配布



当法人での取り組み



- ・年に一度の全国大会

大阪・名古屋・東京と持ち回りで開催

研究者や専門家、経験者を招いての講演会

日ごろONLINEでやり取りしている母親たちのオフ会

コロナ時はYouTubeライブで開催 220名動員

昨年は大阪リアル開催 130名動員

事業を継続させるための工夫

- ピアサポートグループである事
活動をサポートしているお世話役は全員ボランティア
お給料が発生しないので、利益にこだわらずに流動的に動く事ができる
お世話役は2～3年で交代
- 「支援するものが一番救われる」という福祉の考えを導入
- ホラクラシーという組織形態で運営
流動的で今渦中の人たちが欲しているサービスを提供できる
やり取りはすべてslackを使って透明性と効率を大切にしている
組織員はトラブルを避けるように、
「NVC」というコミュニケーションスキルを習得し使用している

学校に行く事ができればいいというものではない

当法人がしている事は、この事を母親たちに伝え続けている事
一番大切な事は、子ども達の心の健康を守る事であり、そこにポイントを置いてサポートしていく方法等（傾聴、視覚支援、コミュニケーションスキル）を、具体的に伝える事をしている。

成人期に入ったお子さんの母親には、公的支援の積極的利用も進めている。

【結果】

当法人会員で中学校3年時に不登校だった頃から継続的に参加されている63人の母親にインタビューしたところ、5年後時点で非就学・非就労の人は、3人（0.5割）という結果が出た。

今後やっていきたい事

- これまで通り、「三次予防」「子ども達の未来を大丈夫にするために」という**存在目的**を軸に、母親が必要としているサービスを柔軟に提供していく姿勢
- 教育、心理、福祉以外の社会学、経営学等の各種学会等とも連携を取り、違う視点から不登校というものを捉え母親たちに伝えていく事と、他学会にも不登校の実態を知らせ、協力して新事業を創り出していく事
- 今年度予定
7月：キャリアデザイン学会研修会にて、当法人の活動紹介を行う

当法人の課題

- より多くの人に「不登校のその後」という現実を知ってもらいたいが、その方法がわからない
- 今回、広報のサポートをしていただけるという事で、市民活動グループの事業に応募いたしました。ここにおられる皆様、何卒お力添えをいただきますようお願いいたします。